

イカリソウ (淫羊藿)



photo by KENPEI CC-BY-SA,
from Wikimedia Commons

語源

花の形が船の四爪錨 (よつめいかり; 4本のツメを持つイカリ) に似ていることに由来している。

生薬名の「淫羊藿 (インヨウカク)」は、『本草綱目』に「西川 (現在の中国の四川省) 北部に淫した羊あり。この藿 (インヨウカクの花の藿) を食べたために、一日百遍合す」と記されていたのが由来。

基原

Epimedium pubescens Maximowicz

Epimedium brevicornum Maximowicz

Epimedium wushanense T. S. Ying

Epimedium sagittatum Maximowicz ホザキイカリソウ

Epimedium koreanum Nakai キバナイカリソウ

Epimedium grandiflorum Morren var. *thungergianum* Nakai
イカリソウ

Epimedium semperovirens Nakai (Berberidaceae)

トキワイカリソウ

メギ科 多年生草本

薬用部分

地上部

産地

中国 (華北、華中、東北、雲南、広西など)、朝鮮半島。
日本産は現在ではほとんど市場性がない。

主な成分

配糖体: エピメジン

フラボノイド: イカリイン

アルカロイド: マグノフリン



主な薬効

淫羊藿の煎液には催淫作用のほか、抗ウイルス・抗菌作用、鎮咳・去痰作用などが報告されている。漢方では強壯・補陽・去風湿・強筋骨の効能があり、生殖機能の低下、老化に伴う衰弱、関節の痛みなどに用いる。

代表的処方

【ニ仙湯】

ニセントウ

顔青白く、腰や膝がだるく力がない時の高血圧症に。更年期障害にも用いる。

(処方内容) 仙茅/淫羊藿/当帰/巴戟天/黄柏/知母

【賛育丹】

サンイクタン

陰萎精衰、虚寒で子のできないものに用いる。☒

(処方内容) 熟地黄/白朮/当帰/枸杞子/杜仲 (酒炒)/仙茅 (酒蒸)/巴戟天 (甘草の浸汁で炒る)/山茱萸/淫羊藿 (羊油炒)/肉苁蓉 (酒洗)/炒菝葜/炒蛇床子/製附子/肉桂 (または人参、鹿茸を加える)

文献報告

【男性強壯】

Effect of lipid-based suspension of *Epimedium koreanum* Nakai extract on sexual behavior in rats

J. Ethnopharmacol, 2007, 114, 412-6

【抗うつ】

Effects of Icaria in on Hypothalamic-Pituitary-Adrenal Axis Action and Cytokine Levels in Stressed Sprague-Dawley Rats

Biol. Pharm. Bull, 2006, 29, 2399-403

【抗骨粗しょう症】

Icariin stimulates proliferation and differentiation of human osteoblasts by increasing production of bone morphogenetic protein 2

Chin. Med. J, 2007, 120, 204-10

※参考文献: 「日本大百科全書」「漢方のくすりの事典」「和漢薬の事典」「デジタル大事泉」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp